

日	質問者	質問方式	質問概要
一般質問（第1日）／6日（月）	野村（日本共産党大野市議団）	一括質問・答弁方式	<p><b>1 ゼロカーボンシティについて</b></p> <p>① ゼロカーボンシティを目指した環境づくりを市民と共にどのように進めるのか尋ねる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「経済成長と温暖化」は、切っても切り離せない課題である。産業革命以降、人間は石油・石炭などの化石燃料を燃やし、エネルギーをとり出し経済成長し続けてきた。さらに企業利益を優先し続けてきた結果、産業革命以前に比べ大気中のCO<sup>2</sup>濃度は40%も増加した。それに伴い、地球の気温は上昇し、気候変動は人間生活だけでなく、自然の生態系にさまざまな影響を与えている。ゼロカーボンシティを目指すに当たって、市民と共に、資本主義からの方向転換が必要である。それには市民の理解と協力が必要であると思うが、どのように進めるのか。</li> </ul> <p>② ゼロカーボンを目指したエネルギー政策についてどのように考えるのか尋ねる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>原子力発電についてどのように考えるか。 政府の看板政策「2050年カーボンニュートラル」（温室効果ガス排出実質ゼロ）に貢献するため、原子力発電は脱炭素に有用との見方をしているが、数々のデメリットがある。特に、福島第一原子力発電所のような事故が発生した場合、大野市民に大きな影響をもたらす。原発再稼働・新設についてどのように考えるのか。</li> <li>風力発電についてどのように考えるのか。 大規模に発電できれば発電コストが火力発電並みであることから、経済性を確保できる風力エネルギーは効率的に電気エネルギーに変換でき、太陽光発電と異なり、風さえあれば夜間でも発電することができるメリットがあるとして、各地に計画・建設されているが、その一方で貴重な動植物に悪影響を及ぼすというデメリットもある。 この地域にも、電源開発による（仮称）福井 大野・池田ウインドファーム事業計画がある。大野市はこの計画についてどのように考えるのか。</li> <li>小水力発電についてどのように考えるのか。 発電量は季節や降雨量の影響を受けやすいものの、太陽光発電や風力発電と比較すると安定的であり「純国産で、濁水の問題を除き天候に左右されない優れた安定供給性を持つエネルギー源である。また、地域共生型のエネルギー源としての役割を拡大していくことが期待される」と評価されている。 大規模工事を行わず、水路を変えない小規模な小水力発電の可能性は大野市にあるのか。また調査を行ったのか。</li> </ul>

令和3年9月 第425回 大野市議会定例会

日	質問者	質問方式	質問概要
一般質問 (第1日) ／6日 (月)	野村 (日本共産党大野市議団)	一括質問・ 答弁方式	<p>③ ゼロカーボンの取り組みを行う事業所・農業施設・住宅などに市独自の助成を行ってはどうか尋ねる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ (太陽光発電設備設置・蓄電池設備設置) (V2H設備設置) (木質バイオマス燃焼機器設置 燃料費用 ストープ ボイラー) (地中熱利用装置 空調装置 融雪装置)</li> </ul> <p>事業所・農業施設・住宅などに設置費用や燃料代(薪・ペレット)の助成を市独自で行ってはどうか。</p>

日	質問者	質問方式	質問概要
一般質問 (第1日) ／6日 (月)	松本 (無会派)	一括質問・ 答弁方式	<p><b>1 未来を拓く大野っ子が健やかに育つまち</b></p> <hr/> <p>新型コロナウイルス感染から子どもたちを守るためには。</p> <p>① 18歳以下の子どもたちの新型コロナワクチンの接種率を伺う。</p> <p>② 本市では12歳未満の子どもたちを新型コロナウイルス感染から守るために、学校ではどのようなことをしてきたか。</p> <p>③ 本市では12歳未満の子どもたちを新型コロナウイルス感染から守るために、家庭への啓発活動をどのようにしてきたのか。</p> <p>④ 12歳未満の子どもたちを新型コロナウイルスから守るための予防対策をどのように進めてきているのか。</p> <p>⑤ 12歳未満の子どもがいる家庭が新型コロナウイルスで家庭内感染を起こした場合の対策を伺う。</p> <p>⑥ 学校行事である遠足や体育大会等の開催はどうするのか伺う。</p> <p>⑦ 小学6年生には、11歳と12歳の児童がいる。新型コロナワクチンをまだ接種できない児童と接種した児童間に差別や偏見が生じないようにどのように指導しているのか。</p>

日	質問者	質問方式	質問概要
一般質問（第1日）／6日（月）	伊東（新風会・公明）	一問一答方式	<p><b>1 大野市小中学校再編計画(案)説明会について</b></p> <p>令和3年3月に作成した「大野市小中学校再編計画(案)」の説明会が5月から8月にかけて各地区で行われた。 そこで、次の2点について質問する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ これまで行われた説明会を通して、浮き彫りになってきた再編に向けての問題点はどのようなものか伺う。</li> <li>○ その問題点の解決のために、今後どのような対策を取っていくのか、本市の見解を伺う。</li> </ul> <p><b>2 女性支援について</b></p> <p>いじめや虐待、交際相手からのDV、SNS上のトラブルなど、さまざまな悩みを抱えながらも、相談窓口へのハードルの高さから悩み続ける女性は少なくない。 また、コロナ禍によって“貧困”に陥った女性はどこへ相談してよいか分からず、必要な支援が行き届いていないのが現状である。 さらに不妊に悩む女性や生きづらさを抱えた女性に対しては、心のケアを含め、寄り添った支援が必要と考える。 そこで、次の4点について質問する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 女性の相談支援について、本市の現状と取り組みを伺う。</li> <li>○ 「生理の貧困」対策について、本市の取り組みを伺う。</li> <li>○ 不妊・不育症への支援について、現状と助成事業の拡充について伺う。</li> <li>○ 流産や死産を経験した女性へのグリーフケア等の支援について、本市の見解と取り組みについて伺う。</li> </ul>

日	質問者	質問方式	質問概要
一般質問 (第1日) ／6日(月)	白崎 (新風会・公明)	一括質問・答弁方式	<p><b>1 機構改革後の事務事業の推進及び人材育成について</b></p> <hr/> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 機構改革による事務事業への影響をどのように評価しているのか。</li> <li>○ 機構改革後の業務継続計画の見直しはどのように行われているのか。</li> <li>○ さまざまな分野での連携協定が締結されているが、今後の締結の方針はどのように考えているのか。</li> <li>○ 事務事業の効率化について、RPAの導入による効果をどのように評価しているのか。今後の導入方針はどのようになっているのか。</li> <li>○ 7月に公表された「不祥事の再発防止に向けた取り組み」では、職員研修の定期的な開催の中で、「全職員の受講を徹底するため、開催回数や、オンラインを活用した開催など、実施方法等を工夫するとともに受講確認を確実にを行う」とあるが、これまで、全員が受講できていなかった原因は何か。現段階での具体的な取り組み状況・計画はどのようになっているのか。</li> </ul>

日	質問者	質問方式	質問概要
一般質問（第1日）／6日（月）	永田（清風会）	一括質問・答弁方式	<p><b>1 大野市国土強靱化地域計画について</b></p> <p>本年も猛暑の夏が過ぎ秋めいてきた。四季折々の豊かな自然は、時には脅威と災害をもたらす。特に近年の気候変動による線状降水帯や台風の大型化による被害、土砂災害や地震災害が頻発（ひんぱつ）しており、地域の安全は常に脅かされている状況にある。</p> <p>令和2年11月に大野市が大野市国土強靱化地域計画を策定した。同年12月に国が「防災・減災、国土強靱化のための5か年加速化対策」を閣議決定し、加速化・深化のために重点的・集中的対策を講じることとしている。</p> <p>① こうした観点から、高度成長期以降に集中的に整備されたインフラについて、今後加速度的に老朽化が進行すると中長期的に維持管理のトータルコストの増大を招く。現在取り組んでいることがあれば伺う。</p> <p>② インフラDXの推進について伺う。</p> <p>③ 雪害や豪雨災害のほか、地震災害など、どのように計画を運用されるのか伺う。</p> <p>④ 河川流域関係者が協働で行う流域治水対策について、現在の状況を伺う。</p> <p><b>2 通学路等の交通安全対策について</b></p> <p>千葉県八街市の市道で本年6月28日、歩いて下校途中の市立朝陽小学校の児童の列にトラックが突っ込み、男女5人が死傷する誠に痛ましい交通事故が発生した。亡くなられた方のご冥福をお祈りするとともに、負傷されたお子さまにお見舞い申し上げます。</p> <p>① 大野市において、これまで実施した通学路における安全点検の結果について、ホームページで通学路等対策一覧表が公開されているが、その状況を伺う。</p> <p>② センターラインや路側帯、一旦停止線の補修等の状況について、実施状況を伺う。</p> <p>③ 福井県は、自動車大国として、都道府県別自家用車の保有台数が1世帯当たり約1.7台で全国1位となっている。大野市においては、歩道や路側帯交差点から5m以内に恒常的に違法駐車等が目立ち、通学時に児童・生徒がよけて通る箇所が見受けられる。見守り隊などにも指導できないようだが、道路管理者としての対策を伺う。</p> <p>④ 通学路における空き家やブロック塀等の倒壊等の調査について、また倒壊の危険性のあるブロック塀除去事業補助の利用状況を伺う。</p>

日	質問者	質問方式	質問概要
一般質問（第1日）／6日（月）	梅林（無党派）	一括質問・答弁方式	<p><b>1 市長の政治姿勢における行政及び財政運営について</b></p> <hr/> <p>① 市長就任4年目に入り、3年間の総括と最終年の取り組みと達成目標を問う。</p> <p><b>2 水行政と大野市水循環基本計画について</b></p> <hr/> <p>① 議案第76号 令和3年度大野市一般会計補正予算（第5号）案に計上されている「健全な水循環普及啓発事業」252万円の目的と事業内容は。</p> <p>② 議案第76号 令和3年度大野市一般会計補正予算（第5号）案に計上されている「湧水地散策広場整備事業」4,395万4千円の目的と事業内容は。</p> <p>③ 地下水マネジメントにどのように取り組んでいくのか。</p>

一般質問事項一覧

9月 7日（火）

日	質問者	質問方式	質問概要
一般質問（第2日）／7日（火）	廣田（清風会）	一問一答・答弁方式	<p><b>1 大野市のくらし環境政策について</b></p> <p>① 気候変動問題の解決に向けた脱炭素社会を実現するに当たり、本市の温室効果ガスの排出量と吸収量の状況と、脱炭素先行地域に選出されるメリットについて聞きたい。</p> <p>② 令和3年2月に策定された大野市水循環基本計画における市民や企業、団体が主体となる政策の主な取り組みについて聞きたい。</p> <p>③ 令和3年3月に策定された第三期大野市環境基本計画について、令和元年度の年次報告における基本的政策の目標未達政策に対する取り組みについて聞きたい。</p> <p><b>2 大野市の農業について</b></p> <p>① J A福井県は8月18日の理事会において、令和3年産米の内金を1俵当たり、早生うるち米9,000円（前年比▲3,200円）、コシヒカリ10,500円（前年比▲2,700円）とすることを決めたが、前年比20%を超える所得減は農業農村の死活問題であり、今回上程された農業経営収入保険加入促進補助など、国・県・市で所得補填（ほてん）に活用可能な事業について聞きたい。</p> <p>② 改訂が予定されている「越前おおの型 食・農業・農村ビジョン」において、環境政策の一助となる農業農村の位置付けと、現計画の基本方針の達成状況について聞きたい。</p>

日	質問者	質問方式	質問概要
一般質問（第2日）／7日（火）	木戸屋（未来おおの）	一括質問・答弁方式	<p><b>1 子どもたちに対する新型コロナ感染症対策について</b></p> <p>新型コロナウイルス感染症について、デルタ株への置き換わりが進む中、感染者が急速に増加し、県内においても感染者が30人を超える日々が続いている。</p> <p>先日の市長の提案理由で説明があったように、本市では8月28日までに12才以上の市民の60%が2回のワクチン接種を終えているとのことである。</p> <p>しかし、最近は子どもたちへの感染事例が多く、2学期からの学校教育等、子どもたちが多く集まる場所での感染拡大が心配される。それとともに、子どもたちの教育活動の保障、居場所、心のケアなども、細かい配慮で支援していく必要がある。</p> <p>そこで、次の点について質問する。</p> <p>① 子どもたちへのワクチン接種は、どのような状況か。また、教職員等の子どもたちと接する職に就いている者への接種状況はどうなっているか。</p> <p>② 小中学校では、令和3年8月20日に文部科学省から出された「小学校、中学校及び高等学校等における新学期に向けた新型コロナウイルス感染症対策の徹底等について」に沿った感染症対策はどのように取られているのか。</p> <p>③ 児童・生徒に感染が判明した場合、教育委員会主導の下、学校の対応マニュアルはどのように作成しているのか。</p> <p>④ 臨時休業などで児童・生徒が登校できない場合に、配備されたタブレット等のデジタル機器をどのように活用するのか。</p> <p><b>2 ゼロカーボンシティ実現に向けての取り組みについて</b></p> <p>世界各国がカーボンニュートラルへの中長期目標を打ち出している中、日本政府もカーボンニュートラルに向けて重点を置いて取り組み始め、来年度の各省の概算要求にも反映している。</p> <p>産業界でも、グローバルな経営をしていく上で、脱炭素の取り組みは避けて通ることはできず中心課題となってきている。</p> <p>本市においても、「ゼロカーボンシティ宣言」を受け、その実現に向けて全庁で取り組む体制を整え、さまざまな取り組みがスタートしている。</p> <p>そこで、次の点について質問する。</p> <p>① 本定例会に提出されている補正予算案の「脱炭素ビジョン」策定事業は、どのようなものなのか。</p> <p>② カーボンニュートラルに向けて、市民一人一人がすぐにでも取り組めることの中に、ごみの減量化、省エネ活動などがあるが、その点についてどのように取り組んでいくのか。</p>

日	質問者	質問方式	質問概要
一般質問（第2日）／7日（火）	廣瀬（新風会・公明）	一括質問・答弁方式	<p><b>1 コロナ禍における経済支援対策について</b></p> <p>新型コロナウイルス感染症の拡大により影響を受けている市民と事業所の支援のため、市は昨年、今年と2年続けてプレミアムお買物券を販売した。 このことについて、以下の2点についての説明を求める。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 昨年のお買物券の販売状況はどうだったのか。経済効果はあったと考えているのか。</li> <li>○ 今年のお買物券の販売状況はどうか。</li> </ul> <p><b>2 道の駅を拠点とした大野市の観光戦略について</b></p> <p>道の駅「越前おおの荒島の郷」が開駅して4カ月がたった。道の駅については、今年の3月議会においても質問したが、その後の対応も含め、以下の3点について説明を求める。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 国内大手旅行会社と連携し「大野市版じゃらん」を発行して体験メニューを紹介したり、レンタサイクルの貸し出しをスタートしたりしたが、道の駅に立ち寄った観光客の道の駅から市内への回遊促進に効果はあったのか。</li> <li>○ 荒島岳登山ルートの入りに当たる勝原スキー場跡の駐車場の整備の状況について</li> <li>○ 紅葉シーズンには刈込池へかなりの数の観光客が訪れると思うが、これまでの市の対応と今年への対応について</li> </ul>

日	質問者	質問方式	質問概要
一般質問 (第2日) ／7日(火)	榮 (日本共産党大野市議団)	一括質問・ 答弁方式	<p><b>1 沖縄戦戦没者の遺骨を含む土砂を辺野古新基地の埋め立てに使用していることについて</b></p> <hr/> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 市長は、第425回大野市議会定例会の開会に当たり、最近の諸情勢や市政の重要課題の取り組み状況の説明の中で、8月18日に「大野市戦没者追悼式」を挙行され、先の大戦の犠牲者に思いをはせられ、平和の誓いを新たにされ、命の尊さや平和であることの大切さを認識され、戦争の歴史を正しく後世に伝えていく機会を得たと述べられている。</li> <li>○ 先の大戦では本市からも数多くの人たちが出征されていることから、私としてはそのような土砂が埋め立てに使われることは人道的見地からいかなものかと思うところである。</li> <li>○ 大野市は沖縄県読谷村とも友好があり、職員がかつては派遣されていたとのことであり、遠い他人事としないことは大切なことではないか。</li> <li>○ 以上のことから、市長の見解を伺いたい。</li> </ul>

日	質問者	質問方式	質問概要
一般質問（第2日）／7日（火）	ダニエル（無党派）	一問一答方式	<p><b>1 教員の超過勤務時間の削減について</b></p> <p>新聞でも時々話題になる教員の働き方改革について、2019年6月の一般質問でも取り上げたが、あれから2年が経過した。令和2年9月に改訂された大野市学校業務改善方針によれば、過労死ラインとされる月80時間以上勤務している教員の数は減っているものの、文部科学省が提唱する月45時間以下の残業時間の達成には程遠いと思われる。</p> <p>このため現在も教員の残業を前提として学校業務が成り立っていると云わざるを得ない。また持ち帰り残業の存在を考えると、数字に現れない残業をこなしている教員もいると思われる。</p> <p>教員の残業が減らない理由は、学校が本来必ずしもしなくてよい業務をいまだに抱え込んでいるからだと思われる。</p> <p>県の学校業務改善方針によると、特に中学校では部活動の指導時間が総残業時間の4割近くを占めている。私が以前から提唱しているように、部活動を学校から切り離して地域でやるようにすれば、文部科学省の「残業月45時間」ラインをクリアできるのではないか。</p> <p>現在、大野市でも少子化が進み、各中学校において生徒の部活の選択肢が少なくなっている。これでは教育行政の受益者（生徒）の立場に立った質の高いサービスを提供できない。部活動を学校から思い切って切り離し、地域で運営すべきではないか。野球もサッカーも大野市に1チームつくれば、スキルの向上につながると考えている。</p> <p>現場でも、残業時間削減のために一生懸命工夫を凝らしていると思うが、付け焼き刃的な改革では目標を達成することができない。教育委員会事務局で判断できない大きな決断は、市長か教育長がリーダーシップを取って、部活改革等を進めていくべきではないか。</p> <p>1項目で聞きたいことをまとめると、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 文部科学省の「残業月45時間以内」が達成できないのは、現場に問題があるからか、それとも文部科学省の要求が厳しすぎるからか。</li> <li>○ 中学校の部活動を全面的に外部委託することで、月45時間を達成できるのではないかと思うがどうか。</li> </ul> <p>以上の2点について、明確な答弁を伺いたい。</p> <p><b>2 県内一子育てしやすいまちをつくるために</b></p> <p>県内で最も子育てしやすい自治体を目指して「大野ですくすく子育て応援パッケージ」を立ち上げたと思うが、高浜町や永平寺町では学校給食の無償化を実現している。</p> <p>「県内一の子育てしやすいまち」を実現するなら、給食の無償化に向けて取り組むべきだと思われるが、市長と教育長の見解を伺いたい。</p>